友愛の広場

FRIENDSHIP
PLAZA

エッセー、海外のロータリークラブ訪問記、時局雑感など。1,000字以内。関連写真があれば添付してください。

生まれてきてくれてありがとう

根室西　倉又　良春

国際ロータリー（RI）は、4月を「母子の健康月間」と位置付けている。

根室西ロータリークラブ（RC）は昨年4月、講師に小学校養護教諭で誕生学アドバイザーの資格を持つ中嶋かおりさんを招き、「生まれてきてくれてありがとう」のテーマで、命の大切さ、母子の絆などについて、卓話をしていただいた。中嶋さんは主に小・中・高校で出前授業を行い、「自分の心と体を大切にし、つながれてきた命の絆を守りましょう」と伝え続けているという。

当日の話の一部を紹介すると、まず中嶋さんは人形を使って、赤ちゃんが命の道（産道）を、体の向きを変えながら通って生まれてくることを説明した。

「今、皆さんがここにいるのは、赤ちゃん時代に誰かが皆さんの命を守ってきたからいるのです。大事に育てられたことを忘れないでください」。会員の表情は真顔になった。

今、世界ではほぼ3秒に一人の子どもが命を落とし、5歳未満で亡くなる子どもは年間約500万人といわれる。日本は世界で一番赤ちゃんの命が助かる国であるとのことだった。

「でも、日本でも子どもを虐待し、死亡させる事件が起きています。このような運命に翻弄されるために生まれてきた命はないはずです。命の尊さを理解できれば、いじめや自殺は減ります。生きていることは当たり前でなく、すごいことだと思ってください」

熱を込めて話す中嶋さんが、最後に『生んでくれてありがとう』と大人に呼び掛ける子どもを増やし、『生まれてきてくれてありがとう』を伝える親を増やす。そして、生まれてきて良かった、生んで良かったという社会にしたいものです」と締めくくると、会員から大きな拍手が湧き上がった。

人形を使って命の大切さを説明する中嶋さん

世界保健機関（WHO）によると、予防接種によって全世界で200～300万人の命が救われているといわれる。中嶋さんの卓話後、会員の間で「ワクチン投与で子どもたちを一生守ることができる」「今、私どもができることは、ポリオ撲滅活動に全力を注ぐだけです」など、力強い声が聞かれた。

さあ皆さん、子どもや孫、ひ孫が生まれてきたら、喜び、「生まれてきてくれてありがとう」と、大声で叫んでください。

（第2500地区　北海道　観光事業）

世界に誇る「日本品質」維持のために

茨木東　奥村　篤二

昨今、企業の不祥事が続発しております。戦後の高度経済成長期、活況に沸く工場に、経営者は労使協調を基に賃上げや福利厚生で報い、工場現場でも「QCサークル」活動に象徴される品質管理（Quality Control）・改善活動に取り組み、日本の製造業は世界を席巻しました。

ところが近年、多くの日本を代表するメーカーで品質問題が生じています。しかもこれらの企業は、世界に冠たる技術を有するメーカーです。その最大の原因は、日本の製造業の競争